

デジタルミュージック科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① 音楽理論に基づき、シーケンスソフトや Pro Tool 及びデジタル機器を用いて、多様な楽曲制作・編曲ができる。
- ② 様々な楽器の特性や演奏方法を知り、楽曲制作において表現の幅を広げるとともに、卒業ライブでは各自の役割のもとでイベントを成功に導くことができる。
- ③ CM やゲーム等、依頼者の要望に応じて、パソコンを使い楽曲制作ができる。
- ④ 各種音響機器の操作に関する知識・技術を身に付けて、MA エンジニア、録音スタジオスタッフ、コンサートスタッフなどの音響技術者として業務を遂行することができる。

■ 身に付ける能力

- ① 楽譜の読み方、記号の理解、音程、調と音階、コード、調と音階とコードの関連、コード進行等の音楽理論及び、DAW ソフトの操作技能を身に付け、作曲、編曲ができる。
- ② 現代音楽に欠かせない基礎楽器である鍵盤、ギター、ベース、ドラムなどの特性に関する知識を身に付ける。また基礎楽器の演奏を体験し、楽器による音量や音の広がりを確認し、楽曲制作や卒業ライブに活かすことができる。
- ③ ミキサーや波形編集ソフトを操作し、高品質の音源を記録することができる。また、PA 音響機器や照明機器等を操作し、卒業ライブを演出することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1 年次は、音楽分野における基礎的知識、楽曲制作理論の基礎的知識、楽器演奏・楽曲制作アプリケーションの基本的操作能力、音響機材の操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。また、聴音力を向上のため基礎訓練科目も配置する。
- ③ 2 年次は、1 年次に身に付けたアプリケーション、機材の操作法、楽曲制作の応用力を高め、音楽分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 1 年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングの他、業界企業研究を行う。
- ② 音楽分野における知識習得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習は個々及びグループワーク形式で行う。
- ③ 楽曲制作アプリケーション、スタジオ機材の操作技能を身に付けるための専門科目は実習形式で行う。各科目年間 6 作品程度の課題を作成し、音楽業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、マニプレート実習としてシンセサイザー及び楽曲制作アプリケーション上で実務に即した音色作り、音の表現の技術や知識を身に付ける。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。